

登壇者略歴



ルース・アルパーティン博士は、過去 30 年にわたりアフリカ各地の大学において研究および能力開発に従事してきた。南アフリカのステレンボッシュ大学において、ビジネススクールおよび高等・成人教育センター併任の特別准教授である。主な研究分野は、博士教育、大学院指導、アカデミック・ライティング、研究者育成であり、近年は共同研究者とともに博士教育における知的謙虚さにも取り組んでいる。



デリー・ラザルテ・エリオットは、英国グラスゴー大学の上級講師である。博士課程のカリキュラムおよび教育法に関する研究を精力的に進め、多数の業績を発表している。主な研究テーマは、隠れたカリキュラム、研究者の異文化経験、博士課程における全人的発達、博士課程学生のウェルビーイング、そしてポジティブな研究文化の構築に及ぶ。



ジャスヴァー・カウル・ナチャタール・シン博士は、オーストラリアのラ・トローブ大学ビジネススクール経営・マーケティング学部の准教授であり、複数の受賞歴を有する研究者である。専門は学際研究であり、エンployアビリティとキャリア、高等教育マネジメントの国際化に焦点を当てている。人的資源管理の中核概念であるキャリア資本、多方面のキャリア、エンployアビリティを取り入れつつ、留学生、卒業生、研究者、高度技能移民女性を含む移民のキャリア軌跡を分析している。国際比較の視点を重視し、留学生および研究者の学習経験エコシステムの解明にも取り組んでいる。



程文娟（大阪大学特任助教）は広島大学の博士後期課程に在籍し、博士教育、国際化、人文・社会科学分野における学術出版に関する日本人博士学生の主体性を研究している。研究活動を通じて、国際化が進む高等教育環境において博士学生が出版言語の選択や学術キャリアをいかに形成するかについての理解に貢献している。大阪大学国際機構において特任助教も務めている。



猿田静木（東北大学特任助教）は広島大学の博士後期課程に在籍し、日本における外国出身大学研究者の日本語学習経験を研究している。東北大学グローバルラーニングセンターの特任助教も務める。博士研究では、外国出身大学研究者が日常生活および専門的文脈において日本語をどのように習得し使用するかに焦点を当てている。異文化心理学および日本語教育の知見を基盤に、研究成果を異文化教育プログラムや日本語教育の設計に統合している。